

⇨ 科学者が特定の政治的な行為に（明示的に）加担することは妥当なのか？

5. 科学技術社会論における問題の提起

- 新型コロナウイルス感染症対策専門家会議（首相官邸）
 - 新型コロナウイルス感染症の対策について「医学的な見地から助言等を行うため」
 - 新型インフルエンザ等対策有識者会議新型コロナウイルス感染症対策分科会
 - 新型コロナウイルス感染症対策の「円滑な推進を図るために必要な意見」を述べる
- ⇨ 尾身茂氏によるマスメディアでの市民に向けた発言＝「前のめり」・「踏み越え」？

6. 過去の経験：遺伝カウンセリングを例に

- 染色体異常から遺伝性疾患へ：観察に基づいた行為から確率論に基づいた行為へと変容
 - 遺伝カウンセリングの見直し：客観的な情報を提供する科学者から治療にあたる医師へ
 - 遺伝性疾患の感染症（＝公衆衛生の問題）としての位置付け
- ⇨ 第二次世界大戦前に優生思想の波及に加担した負の歴史
- 個人意思決定には関わるが、社会のための「モラル」の形成には寄与しない

7. 科学の限界

- トランス・サイエンスの考え方
 - 科学によって生成される知識のモデル
 1. 特定の事柄について理解するために、他のパラメータを可能な限り一定化
 2. 現実の現象について理解するために、可能な限り多様なパラメータについて考察＝科学の政治性（科学者コミュニティ内における妥当性によって「知識」が決まる）
- ⇨ 実社会において将来何が起こるのかを正確に予測することはできない
- ⇨ 政治的判断は科学を根拠としてなされるが、科学そのものではあり得ない

8. 曖昧になる政治の責任

- 政治的判断の科学化
 - 政治的判断の妥当性が科学への信頼によって担保される
 - 政治的判断への批判により科学への信頼を失うことになる
- ⇨ 政治が政治的判断に対して追う責任が矮小化され、(一部は)科学に押し付けられる

9. もう一つの専門家の存在

- 多様な「当事者」の存在とその情報発信
 - 感染（発症者、未発症感染者、濃厚接触者、隔離処置該当者など）
 - 対策による影響（ワクチン接種者、経済的困窮者、医療従事者、教育関係者など）
- ⇨ 科学との対立構造になるのは、政治的判断＝科学的判断の構図が前提だから？